

あつかし 荘だより

2010.6

まごころ・ふれあい・思いやり

あつかし荘は、利用者の主体性と自主性を尊重し、人間としての尊厳に根ざした介護を進めます。

あつかし荘は、家族・地域社会との連携を密にし、あたたかい家庭的環境を築きます。



就任の あいさつ



園長

佐久間紀明

4月1日付をもちまして特別養護老人ホームあつかし荘施設長に就任いたしました。昭和61年4月あつかし荘開設当初より平成9年3月まで11年間お世話になり、その後梁川ホーム9年半、川俣ホーム3年半の勤務を経て、13年ぶりに戻ってまいりました。

もとより微力ではございますが、施設経営に全力を傾注してまいり所存でございますので、前任者同様格別のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

これからのおもな行事予定

6月

20日 行事食（父の日）うな重

24日 阿津賀志弁当の日

27日 おやつバイキング

7月

5日 七夕飾り

ホーム内喫茶

15日 阿津賀志食堂（選択食）

19日 行事食（土用丑の日）うな重

22日 手づくりランチ（ピラフ・焼きうどん・ホットケーキ）

8月

8日 夏祭り

13日 お盆焼香

15日 行事食（お盆）おはぎ

9月

1日 夜間消防訓練

12日 敬老会

※日程は予定ですので、変更となる場合もあります。どうぞご了承ください。

観月台公園で花見会 桜の美しさを満喫しました

退公連のみなさんがお話ボランティアで参加

4月15日、あつかし荘から近い国見町観月台文化センターで花見を行いました。園長はじめ職員7名と利用者13名が参加しました。

今年の春は天候不順で肌寒い日が



▲あいにくの天候のため、窓越しの桜見物となりました。

続きましたが、この日もあいにくの曇天のため、センターのロビーをお借りし、窓越しに桜の花見となりました。久しぶりに外出された利用者さんもおられ、目の前にそびえる半田山と満開に咲きそろった桜の花を見てたいへん喜んでくださいました。また、行き帰りの車の中からも、街中に咲いている桜の花と、春の賑わいを感じていただき、利用者の皆様にとっては何よりの気分転換になったことと思われまます。

当日は、退職公務員連盟伊達支部女性部の皆様がお話ボランティアで参加してくださり、利用者一人ひとりと向き合って、地域の出来事や景色にまつわる楽しい話題を提供していただきました。ありがとうございました。

認知症利用者のための 環境づくりに感謝しています。

懇談会 家族の声

3月3日、「利用者家族懇談会」と「認知症介護教室」を開きました。

園長あいさつのあと、信達福祉会苦情解決委員会第三者委員の佐藤豊治様から、「長年、第三者委員を仰せつかり、月に一度は利用者のお顔を見て話をするように心がけています。職員もたいへん良くやってくれていますが、お感じになっていることがあれば教えてください」とご挨拶がありました【写真下】。続いて、同じく第三者委員の中川芳明様からは、「テレビなどでは高齢者虐待の問題がたびたび報道されています。あつてはならないことだと日頃から考えています。施設ではもちろんないと思われませんが、今後よろしくお願ひします」とのお話がありました。



懇談会ではまず、あつかし荘の現状について鳴原支援部長より説明をさせてい

懇談会に出されたご意見

①職員に関すること

・職員がいつも声かけしてくれて、本人もうれしい様子が見られる。

②施設設備に関すること

・施設内が清潔であると感じている。
・認知症の環境づくりに感謝している。認知症があまり進まず、昔のことを覚えていてだけでなく、面会者のことも覚えていてくれるようだ。

・長い間同じ部屋で、本人も馴染んだようだ。入所する前は、短期間で施設が変わったり部屋が変わったりしたので落ち着かなかった。今後も引き続き同じ部屋でお願いしたい。

・4人部屋の廊下側のベッドに居るが、時々ついたての障子戸を開けて外の雰囲気を感じさせてもらっている。

ただき、続いて3つのグループに分かれて意見交換を行いました。



▲グループに分かれてさまざまなご意見をいただきました

③その他

・何かあったらすぐに連絡をお願いしたい（例えば衣類の不足など）。
・定期的な面会を心がけているが、なかなか来れないので、ドライブなどの機会をつくってほしい。
・・・貴重なご意見ありがとうございました。今後に活かしてまいります。

認知症介護教室から

あつかし荘認知症介護委員長の佐藤進也介護士が自らの体験もふまえ、認知症の基礎知識と環境づくり、コミュニケーションなどについてお話ししました。概要は以下の通りです。

◆認知症とは何か？

いわゆる「ぼけ」は老化現象の一つですが、ある出来事の一部を忘れてしまうのが通常の物忘れで、出来事のすべてを忘れてしまうのが認知症といわれています。

約束を忘れてたり、道に迷ったり、日課をこなさない、だらしなくなる等の症状があらわれたら認知症を疑うこととなります。認知症は病気ですので、最終的には、専門医の判断が必要となります。他の病気と同じで早期発見がよい治療につながります。

◆私物は優れた介護用品～私物があるから落ち着ける

ホテルなどは快適ですが、毎日に居ると自宅に帰りたくになります。それは、自分で選び、長い時間を過ごしてきた「私物」がないからです。私たちはその「私物」を通して「自分が自分である」ことを確かめ、ホッとしているのです。



◆個別の環境づくりに力を入れています

私たちは利用者様の生活歴や趣味などを参考に、「その人らしい」個人のベッド周りの環境整備に取り組み、家庭の雰囲気にならなくても近づくよう、そして落ち着いた環境で生活していただけるよう工夫しています。

利用者様ご自身の思い出の品などがご自宅にありましたら、あつかし荘へお持ちいただければ幸いです。

* * * * *

続いてグループワークを行い、ご家庭での苦労されたお話やご家族の思いを語っていただきました。

「自宅で長い間介護してきたのでその苦労がわかる。言葉が話せないので、介護者側が判断するしかない」

「(昔はあった)薬の拒否も無く、満足して生活しているようだ」

「家に居ても『荷物を持って帰る』というようなことをよく言っていた」

「家族としては、認知症であることを認めたくない気持ちがあり、どうしても否定してしまう。以前の状態を思い出して、こんなはずじゃないと思ってしまう」

「今は長生きする人が増えているので認知症の人も増えているのだと思う」

「介護をしていると、虐待してしまう人の気持ちがわかるような気がする」

—いただいたご意見を今後の介護に活かしてまいります。



食

ケア情報 ● plus

を考える④

摂食・嚥下(えんげ)とは、食物が認知され、口腔(こうくう)、咽頭(いんとう)、食道を経て胃に至るまでのすべての過程をいいます。摂食・嚥下障害とは、この一連の動作に障害があることです。

誤嚥(ごえん)とは、食べものの一部あるいは全部が声門以下の気道に流入することをさし、飲食物・分泌物・胃内容物の誤嚥により

高齢者の摂食・嚥下(えんげ)機能 ～肺炎を引き起こす一因に～

起こる肺炎を誤嚥性肺炎といいます。

日本の死亡原因の中で肺炎は、平成18年の厚生労働省の報告では、第4位ですが、高齢になるほど比率は上昇しています。高齢者の肺炎には、摂食・嚥下障害が背景にあり、誤嚥性肺炎が多いと考

えられます。

高齢者では、一見食欲不振と思われる症状の背景に、誤嚥もしくは誤嚥性肺炎が潜んでいて、嚥下障害のために食事がとれない場合がありますので、摂食・嚥下障害の評価が常に必要です。

また、高齢者は、加齢とともに歯が欠損し、舌の運動機能が低下、咀嚼(そしゃく)能力や唾液(だえき)の分泌も低下、口腔感覚の鈍化、塩味に対する味覚の低下などが生

じて、咽頭への食べものの送り込みが遅れるような口腔での問題が生じます。

また、嚥下障害をきたす原因疾患としては、脳梗塞・脳出血などの脳血管障害があり、食べ物が飲み込めなくなったり、誤嚥がみられることがあります。これら疾患は、高齢になるほど合併することが多くなり、認知症との合併例が多く認められ、認知症状の進行とともに嚥下障害がみられることがあります。

(参考・引用：財団法人長寿科学振興財団のホームページより)



▲ひな祭りのお膳

あつかし掲示板

●ボランティアの皆さん

【国見町】国見町婦人会連絡協議会様(清掃等) 磐青の会様(清掃等) 退公連伊達支部女性部様(お話) 宍戸京子様(洗濯物たたみ) ニューモラルクラブ様(草刈り)
【桑折町】桑折町連合婦人会様(清掃等) 小山美紀子様(洗濯物たたみ) 釧路中万正寺2区方部会(花植)

●利用者への寄贈等

桑折町連合婦人会様(タオル等) 佐久間様(カレンダー等) 個人(日本人形) 個人(ニット製の衣類多数) 菅野訓子様(タオル)

●学生さん等の実習

ニチイ学館(ホームヘルパー2級)、仙台医療福祉専門学校(体験実習)
(以上、平成22年1月1日～6月15日)

●お世話になりました

小野智義園長、松浦啓子副主任介護士、近藤美和子看護師は、3月31日をもって退職いたしました。利用者・ご家族の皆様はじめ多くの方々にお世話になりましたこと御礼申し上げます。ありがとうございます。



●新入職員紹介 (4月1日付採用)

4月1日付で栄養士・木村菜穂子(写真上・国見町出身)、介護職員・藤野将義(写真下・桑折町出身)を採用いたしました。ご家族皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



編集後記

◆春先からの天候不順で体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。一方で、低温のせいか施設周辺の桜は今年は長く観賞することができました◆6月初め、恒例により地元中学生の皆さんにヒマワリの苗250本を植えていただきました。今年も夏に大輪の花を咲かせてくれ

ると思います◆今年は8月8日に夏祭りをを行うこととしました。例年同様、ご家

族の皆様と地域の方々に楽しんでいただける内容にしたいと準備をしています

苦情相談 受け付けます

あなたやあなたのご家族などが、現在ご利用されている当事業所の福祉サービスについてご相談等がありましたら、ご遠慮なく「苦情受付担当者」もしくは「第三者委員」にお申し付けください。

【苦情受付担当者】

支援部長 嶋原 誠
主任生活相談員 宍戸 克己

【第三者委員】

介護保険運営協議会委員 佐藤 豊治さん

【苦情解決責任者】

施設長 佐久間紀明

居宅

あつかし荘指定 居宅介護支援事業所



佐藤奈穂子
管理者兼介護支援専門員

みなさん、こんにちは。
あつかし荘指定居宅介護支援事業所の佐藤です。

居宅介護支援事業所は主に、
○介護保険の申請手続きの代行
○ケアプランの作成
○各種サービスの情報提供など
を行うところです。

ご自宅でいろいろなサービスを利用しながら安心して生活できるようお手伝いしますので、介護に関する相談、困りごと等ございましたらお気軽にお電話ください。ご相談は無料です。

あつかし荘指定居宅介護支援事業所
電話 024-585-5610

2010年6月20日号

あつかし 荘だより

編集 ●あつかし荘広報班
発行 ●社会福祉法人信達福祉会 特別養護老人ホームあつかし荘
〒969-1642 福島県伊達郡桑折町大字北半田字一本木前5の2
TEL.024-585-5610 FAX.024-585-5611
URL <http://www.shintatsu.jp>
E-mail: atsukashi@shintatsu.jp

あつかし かわらばん

書初めで 気持ちも新たに

1月21日、書初めを行いました。年頭に当たり気持ちを新たに筆をとりました。それぞれ新年にふさわしい言葉を選び、心を込めて書かれていました。



▲書初めを楽しむ利用者の皆さん

万一の火災に備えて 研修会と訓練実施

2月25日、朝倉・中央消防署西分署長さんを迎えて消防研修会を行いました。相次ぐ福祉施設の火災の教訓に学び、絶対に火災を起こさないよう決意を新たにしました。また、4月19日には、避難訓練を行いました。施設内から出火したとの想定で、利用者の皆さんにも協力願い、万に備えました。



▲避難訓練の様子（4月19日）

手づくりランチに 食欲倍増！

4月22日、手づくりランチを実施しました。昨年度から試みているこの行事、目の前で調理して皆さんにお出しするというもので22名の方が参加されました。今回のメニューは、お好み焼き、焼きそば、ホットケーキの3種類で普段以上に食欲が出た方も多かったようでした。



▲選ぶ楽しみもある手づくりランチ

彼岸供養 桑折の歴史にふれる

3月24日、彼岸供養を行いました。無能寺御方丈の読経のあと、全員が焼香し、物故者の霊を慰めました。その後は、方丈様による御詠歌ならびに法話をお聞きしました。中でも桑折や無能寺の歴史にまつわるお話を、皆さん興味深そうに聞き入っていました。



▲法話を聞く利用者の皆さん



▲無能寺の御蔭廼松（みかげのまつ）

明治14年(1881)8月10日、明治天皇の東北巡幸にあたり、御休所であった無能寺において、天皇は住職矢吹良慶に樹齢を問い、杉孫七郎宮内大輔が「御蔭廼松」と命名揮毫しました。推定樹齢450年、樹高6m、根回り5m、枝張り16mで、樹姿・樹勢ともに見事な松です。

●杉宮内大輔の詠じた和歌

おほきみの みかけの松の深みとり
夏も涼しき 色に見えつつ

今月の ワンポイント 認知症 ④

あつかし荘では、認知症に対する理解を深め、「一人ひとりの利用者のその人らしさを大切に、その人を中心としたケア」ができるよう取り組みをすすめています。今月のワンポイント認知症は、「認知症の中核症状」についてです。

中核症状とは、認知症の人に必ず現れる症状で「主症状」ともいわれます。中核症状には、①記憶障害、②見当識障害、③実行機能障害、④失語、⑤失認、⑥失行、⑦人格の変化、の7項目があります。

1. 記憶障害

■認知症の記憶障害の特徴(1)

体験の全体を忘れる…認知症の中核症状としては、まず記憶障害(記憶力の低下やもの忘れ)があげられます。普通のもの忘れは、歳をとると誰にでも起こるものですが、認知症のもの忘れはそれとはまったく異なります。

健康な人のもの忘れを良性健忘(りょうせいけんぼう)といいます。一方、認知症のもの忘れは、思い出すことができただけでなく、体験したことすべてを忘れてしまうという特徴があります。

普通のもの忘れでは、置き場所を忘れたことを自覚していますが、認知症のもの忘れでは、置いたこと自体を忘れてし

まい、そのために盗まれたと思ひ込みトラブルになることが多くあります。

■認知症記憶障害の特徴(2)

新しいことを覚えられない、過去の記憶がなくなっていく…①新しく経験したことを記憶にとどめることが困難になる(前向健忘)、②過去の記憶が喪失されていく(逆行健忘)

【例】同じことを何度も言ったり聞いたりする。物の置き忘れやしまい忘れが目立つ。食事を摂ったことを忘れる、薬を飲み忘れたり余計に飲んだりして、管理できない。一度に二つのことが覚えられない。(醤油とソースをもってこれない)など。

信達福祉会『認知症高齢者へのケア』マニュアルから